

○荒川 直子¹

¹王立薬剤師協会

【背景】Pharmacy Practice Research (PPR)を用いて研究される範囲は広い。薬学教育は PPR で研究される領域の一つであり、教育ニーズや教育的介入の影響、そして薬剤師の労働力問題に焦点を当てる。薬剤師は患者や国民全体の健康向上のために重要な役割を担う。それに対し、薬学教育は、薬剤師が患者や社会の保健ニーズに応えるために必須のコンピテンシーを獲得し、維持出来るよう準備するための触媒であり、基盤でもある。国際薬剤師・薬学連合 (FIP) は学部教育から生涯教育までを含む一貫した教育の重要性を認識しており、FIP 内の教育関連活動全てを包括する組織として FIP 教育 (FIP*Ed*) がある。従って、この発表では FIP*Ed* を軸として行われた薬学教育研究に関する広報活動と研究プロジェクトの結果を共有することを目的とする。

【主な内容】FIP*Ed* は教育開発チーム (EDT)、FIP 薬学教育セクション、大学機関メンバーシップの3つの組織によって構成されている。薬学教育研究は EDT を中心に進められ、2013年には国際薬学生連盟と共同で世界の薬学生の学習経験を調査、国際比較した。また現在は FIP のネットワークから派生し、日英薬剤師会が薬剤師生涯教育支援のために共同調査を行っている。これらの概要や調査結果を本発表内で共有することで、日本薬学会での PPR もしくは薬学教育研究への取り組みを検討する機会を提供するであろう。